



こ だい かりゅうど まな 古代の狩人に学ぼう ～石器作りに挑戦～

石器とは？

「石器」とは、石で作った道具のことです。「金属」を知らなかった時代や、金属があったけれどまだ貴重だった時代は、「動物の骨」や「貝殻」、そして「石」などの自然にある硬いものを利用して刃物を作っていました。

石器には、石をたたき割って作ったもの（だせいせっき打製石器）と、磨いて作ったもの（まさせいせっき磨製石器）があります。

ここでは、「石の矢じり」の作り方を紹介します。



石の矢じり (石鏃) を作ろう!



石鏃とは、石で作った矢じりのことです。弓矢の先にとりつけます。
 縄文時代の始まりとともに弓は使われるようになり、シカやイノシシのように大型で動きの速い動物や、空を飛ぶ鳥などをつかまえることができるようになりました。

材料・道具

- ① 原石 (サヌカイト)
- ② 五寸釘
- ③ ゴーグル
- ④ 人工皮 (なければ厚い布)
- ⑤ 革手袋
- ⑥ 竹 (矢の柄用)
- ⑦ 木の枝 (弓用)
- ⑧ たこ糸
- ⑨ 文房具 (ハサミ、カッター)



注意!

石器作りは破片が飛び散って危険です。安全な服装で行いましょう。



石鏃の作り方

1



原石を削って、薄い破片 (剥片) を削り出す。

2



剥片に五寸釘を押しあてるようにして、形を三角形にととのえる。



<コツ>
 ぐらつかないように剥片の縁を布に押し当てると、やりやすい。



昔の人はシカの角を使っていました。

3



剥片の縁に釘の先を押し当て、薄く押しはがすようにして刃をつける。



<コツ>
剥片の縁に釘を押し当てて、少しづつ割ると上手くいく。

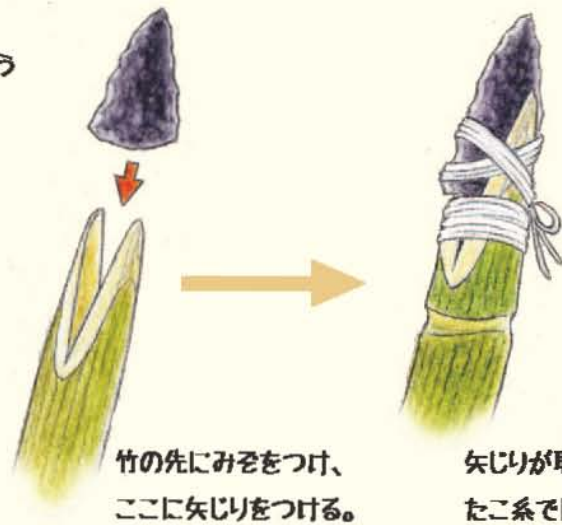


弓矢の作り方

矢

竹の矢に自分で作った石の矢じりをつけてみよう

<ポイント>
接着剤を使うとしっかり固定されるよ。
昔の人は天然のアスファルトを接着剤として利用していたよ！



竹の先にみぞをつけ、ここに矢じりをつける。

矢じりが取れないようにたこ糸で固定する。

弓



木の枝をしなせながら、枝の両はしに強となるたこ糸を結ぶ。



ピンと乘ったたこ糸がはずれないようにしっかりと結ぶ。

完成!



注意！
石器は人にむけて使わないでください。



古代人の技！

県内出土の石器の紹介



いしざし
石匙

きたがや
草津市 北萱遺跡

動物の皮をはぎ、肉を切る道具。

サヌカイト製。約6cm。

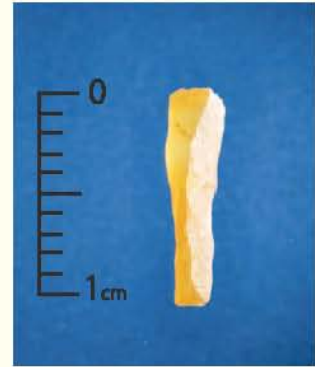


ゆづせんとつき
有舌尖頭器

くSのまろ
近江八幡市 蔵ノ町遺跡

木の棒の先にとりつけて、やりとして使った。

チャート製。約7cm。



石針

かさひまき
草津市 烏丸崎遺跡

穴を開けるために使ったキリの針。

メノウ製。約1cm。

石器の材料の石

石器を作る石は、サヌカイトや黒曜石・チャートのように、薄く割れる性質の石を使いますが、滋賀県に近い所では、サヌカイトは奈良県や香川県、黒曜石は長野県でしかとれません。昔の人達は、石器の材料を得るため、遠い所の人達と盛んに交流していました。

チャートは県内でもとれます。

石器の材料をさがすなら河原がベスト！



チャート



黒曜石



サヌカイト

編集・印刷 財団法人滋賀県文化財保護協会
〒520-2122 滋賀県大津市瀬田南大菅町1732-2
TEL 077-548-9780 FAX 077-543-1525
平成23年3月25日刊行